

## 第2章 姫川流域の土砂災害

姫川流域は松本盆地と日本海側を結ぶ回廊にあたり、「塩の道」と称される街道が古くから通じていたことから、災害の古記録も数多く残されています。

主な土砂災害年表を表 2.1 に、災害の発生位置

図を図 2.1 に示します。表 2.1 の位置の番号①～⑫は、図 2.1 の番号と対応しています。また、主な災害事例の詳細については 2.1～2.11 に各論を示しています。

表 2.1 (1/3) 土砂災害年表

  本冊子で取り上げた事例   天然ダムを伴った事例

位置	和暦・西暦	発生地点 「名称・通称」	誘因	被害の詳細	出典
①	養老二年 (718)	小谷村清水山 「清水山の地すべり」	不明	三峰山中腹から地すべりが発生し、そのため神宮寺が移転。	※1
②	大同元年 (806)	糸魚川市蒲池 「蒲池の地すべり」	不明	蒲池村の地すべり地帯、上条保・下条保の集落の足下から地すべりがはじまり、稲葉・上町屋の集落へ押し出し三宮で止まる。	※2
③	康和元年 (1099)	小谷村清水山 「清水山の地すべり」	不明	大規模な地すべりが発生し、諏訪神社が移転。神社杉も埋没したといわれている。当時ツンブリとヌケノヒラの間は平らであった。	※1
④	文亀元年 (1502)	小谷村真那板山 「真那板山の崩壊」	地震	崩壊地の規模は、幅 1,200m、奥行き 1,200m、落差 820m。5000 万m <sup>3</sup> の土砂が残存。この大規模崩壊堆積物によって姫川は堰止められ、天然ダムが形成された。最大湛水量は 1.2 億m <sup>3</sup> と考えられる。古谷（1997）は越佐史料をもとに、この年代に該当する地震として文亀元年十二月十日（1502.1.28）の越後南西部地震（M=6.5～7.0）を指摘している。 ※発生年、発生誘因は諸説あります。	※3
⑤		小谷村清水山 「清水山の地すべり」		中屋敷で地すべりが発生し、神宮寺が中谷西に移転、中谷川を堰止め湛水。沖の地名発生。	
⑥	正徳四年三月十五日 (1714 年 4 月 28 日)	小谷村坪ノ沢 「岩戸山の崩壊」	地震	坪の沢で山抜け。高さ 420 間（約 756m）横幅 100 間（約 180m）。姫川を堰止め、塩島新田まで 2 里（約 7.8km）湛水。坪の沢では、30 人、牛馬 8 匹が犠牲。	※4
⑦	文化六年一月二十四日 (1809 年 3 月 9 日) 文化十五年三月十一日 (1818 年 4 月 16 日)	小谷村大久保 「大久保の山抜け」	不明	大久保で山が抜け崩れ、土砂が押し出し家や田畑に甚大な被害が発生。また、横根沢を閉塞し天然ダムを形成。	※4
⑧	文政七年十二月十七日 (1825 年 2 月 4 日)	小谷村白池 「白池の大雪崩」	融雪	戸倉山から大雪崩が押し出し、家を押潰し、即死 12 人。同年、供養塔を白池のほとりに建てたが、今は山口の白池へ通じる道の傍に移した。	※4
⑨	天保十二年四月八日 (1841 年 5 月 28 日)	小谷村浦川 「浦川上流の崩壊」	融雪	浦川入の「波布がらがら」という場所で 4～5 町（約 440～550m）程山が抜け、大音響とともに浦川下の長瀬に押し出し天然ダム形成。4 日後に天然ダムが決壊し田地流失。	※4
⑩	明治 24 年（1891） 6 月 16 日	白馬村南股入 「ガラガラ沢の崩壊」	降雨	松川上流南股入右岸のガラガラ沢で地すべり性崩壊が発生し、土石流となって流下。流出土砂は南股入を堰止め天然ダムを形成。名残が小倉池として現在も残っている。	※3

表 2.1 (2/3) 土砂災害年表

     本冊子で取り上げた事例
     天然ダムを伴った事例

位置	和暦・西暦	発生地点 「名称・通称」	誘因	被害の詳細	出典
⑪	明治 35 年 (1902) 7 月 15 日	小谷村小土山 「小土山の崩壊」	降雨	南小谷小土山が崩壊し、姫川を堰止め天然ダム形成。	※5
⑫	明治 44 年 (1911) 8 月 8 日	小谷村稗田山 「稗田山崩れ」	不明 (降雨)	崩壊は、長 30 町 (約 3,270m)、幅 10 町 (約 1,090m)、高さ 1,000 尺 (約 300m) に及び、崩壊土砂は浦川の谷を埋め尽くした。さらに姫川まで流下すると対岸の外沢下まで達して姫川を堰止め、天然ダムを形成 (長瀬湖と呼ばれた)。湛水は約 3km 上流の下里瀬まで達した。土砂の直撃を受けた下通りで 17 人、浦川尻で 6 人が死亡し、長瀬湖の湛水域となった池原下で 3 戸、下里瀬では 43 戸が浸水。排水路の開削により引水したが、排水路から溢れ出た水は姫川の河道に入らず、堰止め地点の下流左岸側にあった来馬集落に流れ込み河原と化した。 さらに、大正元年 (1912) 7 月 21~22 日に、豪雨により長瀬湖が決壊し、来馬 3 戸流失、下流の橋梁残らず流失。	※1 ※3
⑬	大正 4 年 (1915) 4 月 27 日	小谷村池原 「池原の崩壊」	融雪	池原の裏山で崩壊し家屋埋没、姫川に天然ダム形成。	※1 ※6
⑭	昭和 9 年 (1934) 7 月 11 日	白馬村平川 「平川の氾濫」	降雨	平川堤防が決壊し、流失家屋 5 軒、床上浸水 10 軒。	※7
⑮	昭和 11 年 (1936) 5 月 23 日	小谷村風吹岳 「風吹岳の崩壊」	融雪	風吹岳が崩壊し、姫川を堰止め、中谷川まで逆流。	※1
⑯	昭和 14 年 (1939) 4 月 21 日	小谷村大抜ノ沢 「風張山の地すべり」	融雪	午前 9 時半頃、風張山が崩落し姫川を堰止め、対岸の大糸線と国道 148 号 (当時県道) まで埋没し、交通は遮断され水深 20m の池となり、上流 1km の滝の平近くまで湛水。	※8
⑰	昭和 34 年 (1959) 9 月 26 日	白馬村 「伊勢湾台風による 氾濫」	降雨	伊勢湾台風の降雨で松川・平川が氾濫し、白馬村での被害額 2 億 9,000 万円。災害救助法適用。	※7
⑱	昭和 36 年 (1961) 6 月 23 日	小谷村清水山 「清水山の地すべり」	降雨	梅雨前線豪雨により清水山で地すべりが発生し、中谷川を堰止めた。	※1
⑲	昭和 39 年 (1964) 8 月 29 日・10 月 21 日	小谷村浦川 「浦川の土石流」	降雨	浦川で土石流が発生し、姫川本川を堰止めた。	※9 ※10
⑳	昭和 42 年 (1967) 5 月 5 日	糸魚川市赤禿山 「赤禿山の崩壊」	融雪	午前 0 時頃から 5 日早朝にかけて 3 回の崩壊が発生、約 50 万 m <sup>3</sup> の土砂や残雪が押し出した。このうち約 10 万 m <sup>3</sup> の土砂が大所川を堰止め、幅約 200m、高さ約 10m の天然ダムを形成。湛水は上流 1km に及び、約 800m 上流の大所川第 2 発電所に被害。昭和 44 年 (1969) 8 月 12 日の豪雨により天然ダムは決壊したが、排水路を作るなどの対策を行っていたため大きな被害は発生しなかった。	※3
㉑	昭和 59 年 (1984)	糸魚川市 「青抜地すべり」	不明	青抜地区斜面下部で地すべり発生。規模と活動の激しさの点で新潟県内で有数の地すべりの一つ。当時の地すべり移動量は年間 10~20m。昭和 60 年度に地すべり対策事業に着手。	※11

表 2.1 (3/3) 土砂災害年表

■本冊子で取り上げた事例 □天然ダムを伴った事例

位置	和暦・西暦	発生地点 「名称・通称」	誘因	被害の詳細	出典
⑫	平成 3 年 (1991)	糸魚川市 「小滝地すべり」	融雪	ヒスイ峡に面した右岸側斜面に多数の亀裂が発生し、一部の斜面で崩壊。災害関連緊急地すべり対策事業として対策工事が着手された。	※12 ※13
広域	平成 7 年 (1995) 7 月 11～12 日	糸魚川市 小谷村 白馬村 「7.11 豪雨災害」	降雨	記録的な梅雨前線豪雨により、姫川では堤防の決壊、大糸線の不通、糸魚川市大所地区での土石流被害など多くの災害が発生。崩壊土砂量は、流域全体で 1 千万 m <sup>3</sup> を越えると推定され、そのうち約 6 割が姫川本川に流出したものと推定された。	※14
⑬	平成 8 年 (1996) 12 月 6 日	小谷村・糸魚川市境 「蒲原沢の土石流」	融雪	前年の土砂災害の復旧工事中、同一地点の崩壊地が拡大し、姫川本川に達する土石流が発生した。崩壊規模は長さ 120m、幅 60m、最大深さ 20m に及び崩壊土砂量は約 39,000 m <sup>3</sup> (内土石流となって流下した土砂量約 31,000 m <sup>3</sup> )。作業従事者 14 人が犠牲となった。	※3
⑭	平成 10 年 (1998) 3 月	小谷村倉下 「倉下地すべり」	融雪	幅 800m、長さ 800m、深さ約 50m の大規模な地すべり、末端は松川に接している。この斜面は通称「どんぐり村」と呼ばれ、別荘・ペンション用地として開発されてきた。地すべりによる変状は、平成 7 年 (1995) に発見され、その後平成 10 年 (1998) 3 月の降雨と融雪水により、活動が活発になり対策工事が進められた。	※15
⑮	平成 26 年 (2014) 11 月 22 日	小谷村・白馬村 「長野県神城断層地震災害」	地震	長野県北部を震源とする「長野県神城断層地震 (マグニチュード 6.7)」に伴い土砂災害が 28 件 (小谷村 14 件、白馬村 6 件、小川村 1 件、長野市 7 件) 発生。全壊 1 戸、半壊 8 戸の被害が発生。人的被害はなし。	※16

- ※1 記念誌編集委員会 (1992) : 姫川砂防事務所開設 50 周年記念誌, 長野県姫川砂防事務所・長野県治水砂防協会姫川支部, 180p.
- ※2 糸魚川市役所 (1977) : 糸魚川市史 2, 544p.
- ※3 国土交通省北陸地方整備局松本砂防事務所 (2003) : 松本砂防管内とその周辺の土砂災害, 48p.
- ※4 小谷村誌編纂委員会 (1993) : 小谷村誌 歴史編, 538p.
- ※5 八木貞助 (1949) : 姫川流域の砂防治水に関する調査報告, 83p.
- ※6 北安曇誌編纂委員会 (1980) : 北安曇誌 第 1 巻 自然, 1161p.
- ※7 「白馬の歩み」編纂委員会 (1994) : 「白馬の歩み」(白馬村誌) 第 1 巻 自然環境編, 618p.
- ※8 小谷村誌編纂委員会 (1993) : 小谷村誌 自然編, 660p.
- ※9 松本砂防工事事務所 (1992) : 姫川水系直轄砂防事業 30 周年記念誌 そして、未来へ……。姫川流域の発展に寄与する砂防事業, 84p.
- ※10 副読本 (姫川) 作成委員会 (1992) : ふるさと姫川・不思議ランド, 松本砂防事務所, 110p.
- ※11 新潟県, “新潟県糸魚川市青ぬけ地区 地すべり対策事業”,  
(<https://www.pref.niigata.lg.jp/uploaded/attachment/43828.pdf>, 2020.4.21 時点)
- ※12 新潟県土木部砂防課・糸魚川土木事務所 : ロマンシングスペース ヒスイ峡.
- ※13 吉住安夫 (1993) : 砂防課 (建設省所管) における地すべり, 地すべり, 30 巻, 3 号, p.15-22.
- ※14 国土交通省北陸地方整備局 (2011) : 河川事業の再評価資料 [姫川直轄河川改修事業], 25p.
- ※15 川上浩 (2010) : 山が動く 土が襲う 長野県の土砂災害, 信濃毎日新聞社, 202p.
- ※16 国土交通省砂防部 : 平成 26 年の土砂災害

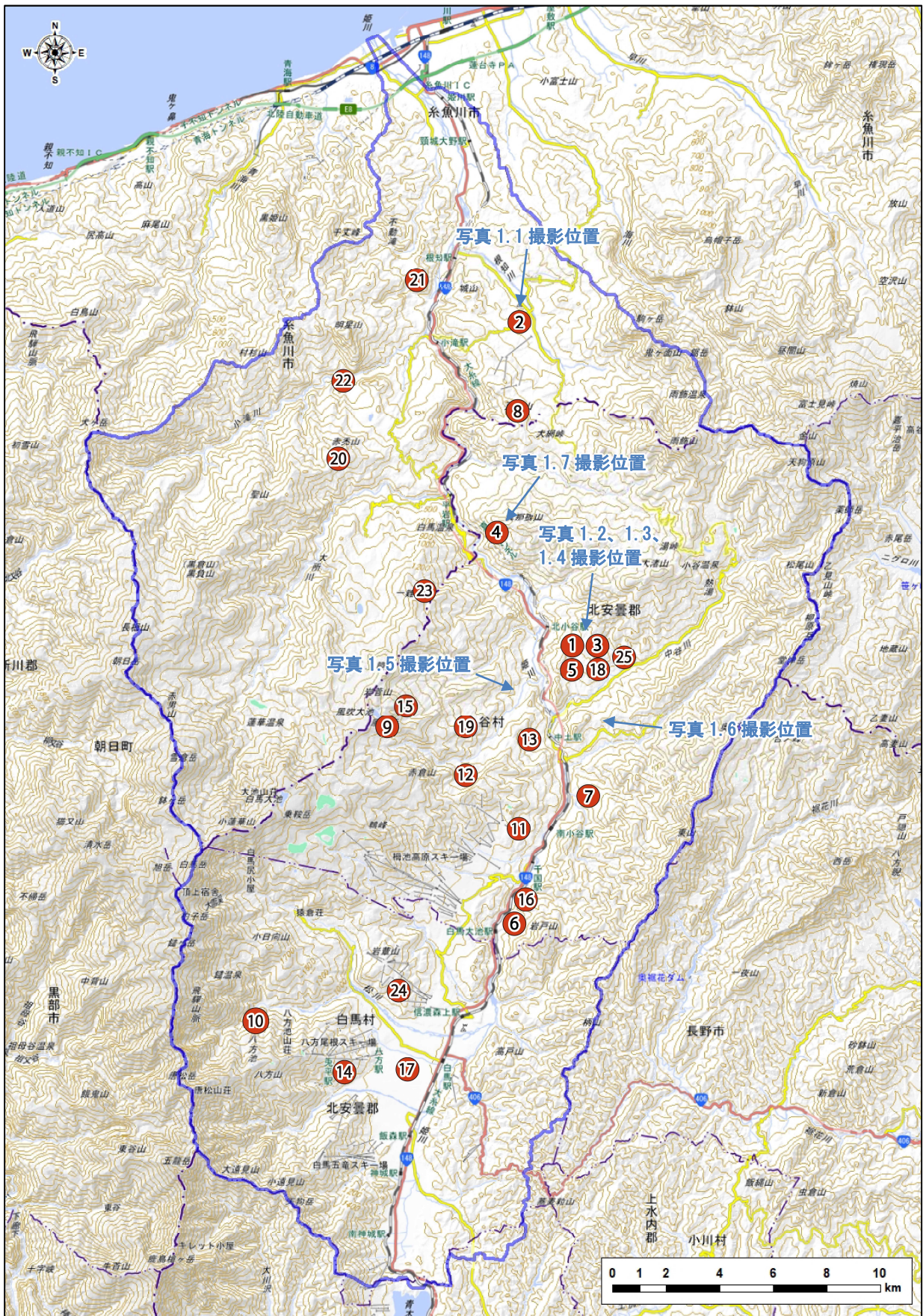


図 2.1 災害発生位置図（地理院地図に加筆）  
 ※図中の番号①～⑫は、表 2.1 の位置番号と対応